

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—101695

⑮ Int. Cl.³

G 09 G 1/00

G 06 F 3/02

3/153

識別記号

庁内整理番号

7923—5C

7010—5B

7060—5B

⑬ 公開 昭和59年(1984)6月12日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 輝度等の調整装置

海老名市本郷2274番地富士ゼロ

ックス株式会社海老名工場内

⑯ 特 願 昭57—211467

⑰ 出 願 人 富士ゼロックス株式会社

⑱ 出 願 昭57(1982)12月3日

東京都港区赤坂3丁目3番5号

⑲ 発 明 者 星野正恵

⑳ 代 理 人 弁理士 山内梅雄

明 細 書

1. 発明の名称

輝度等の調整装置

2. 特許請求の範囲

ディスプレイの輝度、および入力機器の操作に付随して発生する制御音あるいはこれらの一方を調整するための選択データを、入力機器の操作によってディスプレイ上に表示する表示手段と、表示された選択データが前記入力機器によって選択されたときそのデータに応じた調整が行われる調整手段とを具備することを特徴とする輝度等の調整装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はCRT等の表示管を用いたディスプレイにおける輝度等の調整装置に関する。

CRT等のディスプレイには、画面の輝度を調整するために輝度等の調整装置が設けられている。

(従来技術)

第1図はこのうち従来用いられた輝度調整装置

の原理的な構成を概わしたものである。輝度制御部1には輝度調整用の可変抵抗器2が取り付けられている。可変抵抗器2は輝度調整用のつまみ3を操作することによりその抵抗値が変化する。輝度制御部1は輝度調整用のグリッドバイアス電圧V(G)を発生する。グリッドバイアス電圧V(G)は、可変抵抗器2の抵抗値に応じてその値が変化する。CRT4はグリッドバイアス電圧V(G)を所定のグリッドに印加され、その電圧に応じた輝度に調整される。

このような輝度調整装置では、輝度を調整する際にオペレータが現在行っている作業を中断し、ディスプレイの側面あるいは前面に配置されているつまみを機械的に操作する必要がある。これは単純な作業である。しかしながら両手を使ってデータの処理に専念しているオペレータの場合には、手を通常の作業領域から離して新しい作業に着手することが一般に望まれないものとなっている。従って輝度調整のようにその作業を行わなくても現在の仕事を遂行できる場合には、このような作